

◇編集後記◇

18巻6号をお届けします。本号は元々東京第2グループ（現、関東甲信越グループ）の小川委員の担当でしたが、小川委員が急遽中期の海外出張となりましたので委員長河村明が代行させていただきました。

近年、台風や梅雨前線による洪水・浸水被害が多発しています。特に2004年は、第18巻2号の椎葉先生の巻頭言に詳しく述べられていますように豪雨災害が頻発しました。東京都においても近年ゲリラ雷雨が頻発し、先日の9月4日夜の集中豪雨では、環状7号線の地下約40mにある貯水量24万m³の地下調整池が初めて満杯になり、9月17日から使用開始予定だった貯水量30万m³の第2期地下調整池も急遽使用に踏み切りましたが、広範囲の浸水被害が出てしまいました。この2つの地下調整池の総工費は約一千億円とのことです。

これまでいろいろな河川を見てきましたが、元々氾濫域だったところにどんどん人々が住み着き、それを守るために高い堤防の築堤や洪水調節用ダムの建設、そして都心の中小河川では地下調整池などの対策が多額の予算をもってして行われています。もし、その費用で氾濫域にあたる土地を（可能ならば人々が住み着く前に）経済原理で購入して遊水池として残した場合、費用対効果の観点から見てどちら

が効果的なのだろうかと思う今日この頃です。

さて、編集委員会資料によりますと編集後記とは「会員へ編集の状況を知っていただくため、また、後任の編集担当者の参考とするために、編集上で試みた工夫や感じた問題点を述べる」とあります。

今回の編集に当たっても、大勢のボランティアの編集出版委員の方々や原稿の査読を行っていただいた皆様には大変お世話になりました。そして今回、特に会員の皆様にお知らせしなければならないのは、本学会誌の第3巻1号（通巻第4号、平成2年2月28日発行）からほぼ16年間にわたり本誌制作を担当していただきました信山社（現、学報社）・松澤印刷による編集制作が、残念ながら今回の18巻6号（平成17年11月5日発行予定）までとなってしまったことです。私が編集出版委員を仰せつかった第4期（平成6年8月）当初より編集出版作業で種々アドバイスを頂き、前回11巻6号を担当したときには大変お世話になりました。そして今回、また編集担当を行い編集作業を引き継ぐに当たり、編集出版委員長を1年以上務めていながら把握していない点が多々あり、その都度アドバイスをいただきながら編集作業を進め、如何に多くを制作者の方々に依存していたかを思い知らされました。長年にわたり本誌制作に携わってこられた制作者の方々には、この紙面をお借りして改めて感謝申し上げる次第です。

なお、19巻1号からは（株）大應さんによる制作に引き継がれますので乞うご期待です。

〈訂正とお詫び〉

18巻5号掲載の論文〔高藪 出著「地域気候モデル研究の特性と課題について」pp. 547-556〕は本来『解説』のところ『原著論文』に分類して掲載してしまいました。ここに、ご本人の了解のもと訂正してお詫びさせていただきます。

水文・水資源学会誌 第18巻6号（通巻第92号）発行

平成17年11月5日

編集・発行人 水文・水資源学会編集出版委員会

発行所 水文・水資源学会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
（株）国際文献印刷社内

◇学会ホームページ：
<http://www.jshwr.org/>

◇「学会事務局、編集出版委員会、情報基盤特別委員会へのメールでのお問い合わせ・ご連絡は上記学会ホームページの「お問い合わせ」のフォームで入力して下さい。」

Tel. 03-5389-6208 Fax. 03-3368-2822

e-mail: jshw-post@bunken.co.jp

制作／印刷 学報社・松澤印刷